

(別紙2-1) 平成 26 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200638		
法人名	有限会社 ムラオカ		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	〒859-3725 長崎県東彼杵郡波佐見町長野郷380-17		
自己評価作成日	平成26年12月28日	評価結果市町村受理日	平成27年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4271200638-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ	
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号	
訪問調査日	平成27年 2月 5日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ぬくもりがある人の手で心の通い合う介護で、心を込めて家庭的な雰囲気の中、自然の中でゆったりとした時間を過ごしながらも、1人1人が少しでも長くその人らしく生活が送れるように日々、生活の中で認知症進行予防や運動機能低下予防するため、個々のレベルに合わせた自立支援にむけたサービスを提供する事を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは波佐見町内の静かな住宅地に位置し、近隣の高校との交流は利用者には楽しい刺激を与えているようです。近くには同一法人の施設もあり、何かあった際には協力が得られる環境にあります。また、地域の住民と一緒に防災訓練にあたる等の協力体制も築かれています。

ホームとして身体拘束防止に関する理念が掲げられており、家族の安心感に繋がっているようです。スタッフは、利用者一人ひとりの生活を考え、いかに居心地良く過ごせるのかといった視点を持ってケアにあたられています。入浴、食事、排せつ等に関しても自分達で支援できることを考えながら、ケアに努められています。支援やケアが適切にできるような介護計画も作成されており、スムーズに実行できるようにノートやチェック表なども活用されています。

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事務所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を理解した上で理念に基づいた介護・ケアの質の向上を目指している。	現在の理念は、3～4年前に職員から募集して作成されています。意識をもって仕事をしてもらうために、毎朝のミーティング時に唱和されているとのことです。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを継続できるよう施設の夏祭りに参加を呼び掛けまた隣の高校の体育祭に招待を受けたり敬老会では慰問の為に来設していただいたりと日常的に交流している。	老人会やフラダンスの慰問など、ボランティア団体の受け入れも多く、ホームの行事にも地域の人々が多く参加されているとのことです。自治会の行事にも積極的にホームから参加され、日常的にも多くの交流の機会があるようです。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災訓練・中学生の職場体験の受け入れや行事を通じ参加して頂く中で認知症の人の理解や支援方法を知って頂けるよう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議で状況報告や活動報告・など様々な意見を出し合い意見を検討し利用者サービスの取り組みが向上するように努めている	運営推進会議は、定期的に行われています。行事食と一緒に食べる機会など、色々趣向が凝らされています。この会議により、ホームの情報が発信しやすくなり、情報網もできてきたとのことです。その他、様々な意見交換により、より良いホーム運営に繋がっていることもうかがい知ることができます。		
5	(4)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の実情やケアサービスの取り組みについては常時報告を行い助言を受け推進会議にも参加してもらい情報交換を行い協力してもらえるような関係作りに努めている。	連絡は管理者により行われています。相談もし易く、ある程度の関係性は保たれており、その関係性を維持できるよう情報交換に努められています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束及び禁止行為については全員が施設内外での勉強会・講習会を通じて理解し適切なケアを行うよう努めている。	「身体拘束等の排除の理念および方針」が掲げられており、印刷物がパンフレットにも添えられています。職員もホーム内での研修や、外部研修に参加し、熱心に取り組まれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について施設内外の勉強を通じお互いに見逃さないよう注意を払い誠意をもったケアで防止している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の自立支援に向けての施設勉強会や実践者研修での学習、報告会を通じて今後に活用できるよう努めている。成年後見人制度については過去に対応辞令はあったが現在は対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する利用者及び家族の不安や疑問点等含め直接的に説明を行うと共に慎重かつ丁寧に対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置とそれ以外にも運営推進会議での意見要望を聞き取る時間を設け、面会時にも気軽に伝えてもらえるような対応を行い、頂いた意見を運営に反映させている	意見箱の設置やアンケートの実施などから、家族の意見を聴く姿勢がうかがえます。家族がホームを訪問した際には、話を伺うように努められており、話しやすい対応を心掛けられています。意見は会議等により、検討され運営に反映するよう努められています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングにおいて直接施設長及び管理者に意見や提案を伝え運営に反映させている	毎月のミーティングやカンファレンスなどで、職員からの意見の聴取に努められています。施設長や管理者は、意見を運営に反映できるよう努められています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握した上で就業環境に応じた整備に努めているがやりがいを見だせる条件等は運営状況や個々の主観の相違など整備中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの質の向上を目指し内外の研修に受講したり職員相互で共有するなどしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ケアネット波佐見の講習会等、急用時以外は参加し様々なネットワーク及び情報交換をする事でサービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔で明るく接し本人からの聴き取りや要望を環境変化による不安感を抱かせないように気がけ安心した信頼関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を確認した上で安心してもらえるようなサービス提供を行うことへの理解を得られる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人の症状や家族が望む事を理解した上で自立支援向けての見極めを行い必要とするサービスを行うよう対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事をしたり外出等で喜楽を共にし本人を尊重し本人の能力を活かしながら必要としている援助の未行い積極的な行動参加等を排除することなく共同生活の関係性を気付いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月おたよりで本人の状況等伝えたり行事への参加を求め、交流を図り共に支える関係を気づいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症もあり自ら外出し関係性の継続は出来ないが、知人等の多数の面会や外出等で今までの関係を継続出来るように支援している。	知人の協力による面会や外出支援が行われています。面会は多く、今までの関係性が途切れない支援を心がけられています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活リハビリで一緒に作業を行ったりレクリエーション等で利用者同士の交流を図り支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時は介護相談や今後の方針相談などのフォローアップと共に継続的援助を行えるよう努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聞き、職員間で情報を共有する事で把握に努め本人本位のケアプランを作成し日々のケアに生かしている。	ミーティングや申し送りノートの活用により、希望や意向の把握に努められています。希望には早期対応を心がけられ、意向の把握には家族の協力も求められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や本人、家族から話を聞き情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間での情報共有や月2回のカンファレンスにて情報共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで本人や家族の意見を取り入れながら話し合い介護計画の作成を行っている	アセスメントは担当者にて行われ、カンファレンスには全職員が参加されています。その人にあったケアプランの作成に努められており、実践においてもケアが統一できるように、情報の共有に努められています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテや日々の申し送りにて情報を共有しカンファレンスで情報共有及び検討し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や家族の意向を出来る範囲取り入れサービスに反映出来るよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望や必要な物がある時には買い物に同行し楽しんでもらえる時間を取っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は可能な限り本人や家族の希望に添える様に努めている	利用者は、利用開始前のかかりつけ医を受診されています。協力医は、ホームの実情を把握されており、緊急時や往診等の協力も得られています。受診は、家族や職員により支援されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との連携は図れており徳返事はすぐに報告し指示を求め適切な受診・看護を受けられる体制作りを行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に病院関係者との関係づくりを行っている	入所時には病院への訪問・家族との連絡により状況を把握し医療機関とも情報交換を行い早期退院受け入れが出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については家族に書面で確認している。ターミナルケアは勉強会を定期的に行い、かかりつけ医との連携を密に図りながら支援を行っている。	現在まで、終末期支援に何度か取り組まれています。その都度家族と話し合い、その時を混乱なく迎えられるように支援されています。職員に対しても、メンタル面のフォローが行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを掲示し確認している。勉強会も行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	マニュアルの作成、定期的な訓練を行っている。地域の方々と交え防災訓練を行い協力体制を築いている。	様々な災害を想定した計画を作成し、訓練も地域住民との連携が取れるように行われています。備蓄についても準備され、火災等を未然に防止するための点検表も活用されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の思いやプライドを尊重した声かけや対応に努めている	職員全員で、利用者一人ひとりの思いや希望をくみ取れるように支援されています。言葉かけなどにも注意を払い、対応するよう心掛けられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が望む事や行動においてその人らしい生活が出来るよう自己決定を働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調やその人のペースに合わせた1日の過ごし方を尊重しゆったりマイペースな生活が送れるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアや入浴後の整容、外出時のおしゃれ等本人らしい身だしなみを整えるよう声かけしながら続けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に食事を楽しむ時間を共有している。片付けなど利用者さんと一緒に行っている	献立は、管理栄養士により「1汁3菜」を心がけ作成されています。行事食も立案され、利用者も楽しみにされているそうです。職員と利用者が一緒に食事を楽しまれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事量、水分量を提供し一人一人の状態を把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い義歯の洗浄剤を使用し清潔保持しつつ、口腔内の観察、状況に応じ医療機関に相談し桜浸透で清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄動作に不安がある方々も排泄リズムにあわせトイレ誘導等を行い排泄の自立に向け取り組んでいる	排泄パターンがわかりやすく、把握も簡単にできる管理ノートが作成されています。一人ひとりに合わせたケアができるように努められ、自立へ向けた支援に取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面でも食物繊維等気遣いつつ体操などで身体を活動的にする事で便秘予防している、また主治医に相談し服薬コントロールも柔軟に行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に合わせた時間に入浴出来るよう配慮しつつ、本人の意向に合わせた入浴スタイルで対応している	一人ひとりにの状況に応じた入浴支援を心がけられています。希望に応じ、楽しく入浴できるよう努められています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎週1回シーツ交換を行い汚染等あれば都度交換し安心して気持ちよく寝れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに服薬情報も閉じており職員の一人一人が把握するようにしている。また症状の変化があれば看護師に見てもらう。服薬ミスが無いようセット時に2重の確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花壇の手入れや畑の草むしりや種まき、野菜の収穫など季節を感じられる事を日頃から行ってもらったり季節の行事やドライブ等も計画し実行しており気分転換になるよう気がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望などにより家族と一緒に外出・外泊は施設も家族に働きかけ対応してもらっている。また地域行事等にも率先し参加している。	天候などの状況を見ながら、ホーム周辺の遊歩道へ出かけられています。利用者は町内の人が多く、家族の協力などにより外出支援もスムーズに行えるように努められています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預り本人の希望があれば職員が同行し安全を確保し買い物支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望する時は電話を掛けたり手紙がとどいた時は手紙を渡したり、理解しがたい方には読んであげたり、正月などははがきを作成したりとやり取りが途切れないようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除や空調管理によりせいけつな環境作りを提供する努力と共に季節を感じられる装飾品を展示しどこ地の良い空間作りに努めている	共有空間にある壁画の装飾は、利用者と職員との協同制作によるものです。環境整備を大切に考え、掃除などにも熱心に取り組まれています。居心地の良い共有空間づくりを心掛けられています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアではそれぞれが気分に応じて色々な場所に座れるような配慮をしつつ、人間関係にも配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には使い慣れた家具等を極力持ち込んで頂き環境の変化を少しでも減らし居心地の良い環境作りに取り組んでいる。	自分で歩ける人には畳の居室、そうでない人にはフローリングなど、その人に応じた居室が提供されています。使い慣れたものを持ち込んで頂き、居心地の良い空間になるよう支援されています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで自立歩行の方でも車イスの方でも十分ゆとりのある広さも確保している為安全に生活出来るようになっている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事務所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を理解した上で理念に基づいた介護・ケアの質の向上を目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを継続できるよう施設の夏祭りに参加を呼び掛けまた隣の高校の体育祭に招待を受けたり敬老会では慰問の為に設けていただいたりと日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災訓練・中学生の職場体験の受け入れや行事を通じ参加して頂く中で認知症の人の理解や支援方法を知って頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議で状況報告や活動報告・など様々な意見を出し合い意見を検討し利用者サービスの取り組みが向上するように努めている		
5	(4)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設の実情やケアサービスの取り組みについては常時報告を行い助言を受け推進会議にも参加してもらい情報交換を行い協力してもらえるような関係作りに努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束及び禁止行為については全員が施設内外での勉強会・講習会を通じて理解し適切なケアを行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について施設内外の勉強を通じお互いに見過ごさないよう注意を払い誠意をもったケアで防止している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の自立支援に向けての施設勉強会や実践者研修での学習、報告会を通じて今後に活用できるよう努めている。成年後見人制度については過去に対応辞令はあったが現在は対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する利用者及び家族の不安や疑問点等含め直接的に説明を行うと共に慎重かつ丁寧に対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置とそれ以外にも運営推進会議での意見要望を聞き取る時間を設け、面会時にも気軽に伝えてもらえるような対応を行い、頂いた意見を運営に反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングにおいて直接施設長及び管理者に意見や提案を伝え運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握した上で就業環境に応じた整備に努めているがやりがいを見いだせる条件等は運営状況や個々の主観の相違など整備中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの質の向上を目指し内外の研修に受講したり職員相互で共有するなどしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ケアネット波佐見の講習会等、急用時以外は参加し様々なネットワーク及び情報交換をする事でサービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔で明るく接し本人からの聴き取りや要望を環境変化による不安感を抱かせないように気がけ安心した信頼関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を確認した上で安心してもらえるようなサービス提供を行うことへの理解を得られる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人の症状や家族が望む事を理解した上で自立支援向けての見極めを行い必要とするサービスを行うよう対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事をしたり外出等で喜楽を共にし本人を尊重し本人の能力を活かしながら必要としている援助の未行い積極的な行動参加等を排除することなく共同生活の関係性を気付いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月おたよりで本人の状況等伝えたり行事への参加を求め、交流を図り共に支える関係を気づいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症もあり自ら外出し関係性の継続は出来ないが、知人等の多数の面会や外出等で今までの関係を継続出来るように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活リハビリで一緒に作業を行ったりレクリエーション等で利用者同士の交流を図り支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時は介護相談や今後の方針相談などのフォローアップと共に継続的援助を行えるよう努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聞き、職員間で情報を共有する事で把握に努め本人本位のケアプランを作成し日々のケアに生かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や本人、家族から話を聞き情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間での情報共有や月2回のカンファレンスにて情報共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで本人や家族の意見を取り入れながら話し合い介護計画の作成を行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテや日々の申し送りにて情報を共有しカンファレンスで情報共有及び検討し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や家族の意向を出来る範囲取り入れサービスに反映出来るよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望や必要な物がある時には買い物に同行し楽しんでもらえる時間を取っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は可能な限り本人や家族の希望に添える様に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との連携は図れており徳返事はすぐに報告し指示を求め適切な受診・看護を受けられる体制作りを行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に病院関係者との関係づくりを行っている	入所時には病院への訪問・家族との連絡により状況を把握し医療機関とも情報交換を行い早期退院受け入れが出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については家族に書面で確認している。ターミナルケアは勉強会を定期的に行い、かかりつけ医との連携を密に図りながら支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを掲示し確認している。勉強会も行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	マニュアルの作成、定期的な訓練を行っている。地域の方々と交え防災訓練を行い協力体制を築いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の思いやプライドを尊重した声かけや対応に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が望む事や行動においてその人らしい生活が出来るよう自己決定を働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調やその人のペースに合わせた1日の過ごし方を尊重しゆったりマイペースな生活が送れるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアや入浴後の整容、外出時のおしゃれ等本人らしい身だしなみを整えるよう声かけしながら続けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に食事を楽しむ時間を共有している。片付けなど利用者さんと一緒に行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事量、水分量を提供し一人一人の状態を把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い義歯の洗浄剤を使用し清潔保持しつつ、口腔内の観察、状況に応じ医療機関に相談し桜浸透で清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄動作に不安がある方々も排泄リズムにあわせてトイレ誘導等を行い排泄の自立に向け取り組んでいる		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面でも食物繊維等気遣いつつ体操などで身体を活動的にする事で便秘予防している、また主治医に相談し服薬コントロールも柔軟に行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に合わせた時間に入浴出来るよう配慮しつつ、本人の意向に合わせた入浴スタイルで対応している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎週1回シーツ交換を行い汚染等あれば都度交換し安心して気持ちよく寝れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに服薬情報も閉じており職員の一人一人が把握するようにしている。また症状の変化があれば看護師に見てもらう。服薬ミスが無いようセット時に2重の確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花壇の手入れや畑の草むしりや種まき、野菜の収穫など季節を感じられる事を日頃から行ってもらったり季節の行事やドライブ等も計画し実行しており気分転換になるよう気がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望などにより家族と一緒に外出・外泊は施設も家族に働きかけ対応してもらっている。また地域行事等にも率先し参加している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預り本人の希望があれば職員が同行し安全を確保し買い物支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望する時は電話を掛けたり手紙がとどいた時は手紙を渡したり、理解しがたい方には読んであげたり、正月などははがきを作成したりとやり取りが途切れないようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除や空調管理によりせいけつな環境作りを提供する努力と共に季節を感じられる装飾品を展示しどこ地の良い空間作りに努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアではそれぞれが気分に応じ色々な場所に座れるような配慮をしつつ、人間関係にも配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には使い慣れた家具等を極力持ち込んで頂き環境の変化を少しでも減らし居心地の良い環境作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで自立歩行の方でも車イスの方でも十分ゆとりのある広さも確保している為安全に生活出来るようになっている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				